

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0770402592		
法人名	(有) 矢吹薬局		
事業所名	グループホーム羽音		
所在地	〒972-8311 福島県いわき市常磐水野谷町千代鶴176-1 (電話) 0246-72-1667		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年8月19日	評価確定日	平成20年9月29日

【情報提供票より】(平成20年7月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月3日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤	11人, 非常勤4人, 常勤換算9.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての1～2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000円	その他の経費(月額)	10,500円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	450円	昼食 450円
	夕食	450円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	1名		
年齢	平均 85歳	最低	77歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	矢吹病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR湯本駅や旧国道に近い住宅地にある事業所は、東側に公園と南側にゲートボール場があるため近隣の人々の散歩コースとなっている。また、近くに小学校があり、学校帰りの子ども達が事業所に立ち寄ることも多い。事業所で飼っているミニチュアダックフントが利用者を癒してくれており、立ち寄ってくれる子ども達のアイドルになっている。事業所は開設当初から町内会に加入し、地域行事に積極的に参加している。また、地域の協力を依頼し、避難訓練等も実施している。利用者や家族の希望による事業所での看取りについては「看取りに関する指針」と「インフォームドコンセント(告知と合意)」を作成し、利用者や家族に説明し、同意を得ながら実施している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果の改善項目は「地域密着型サービスとしての理念」と「災害対策」の2項目であったが、いずれも職員、家族、運営推進会議のメンバー等で検討しながら改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を十分に理解し、自己評価は自分を振り返る良い機会だと捉え、職員全員で取り組み、それらをもとに管理者がまとめ、改善課題等を把握し検討することで質の向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5)
	運営推進会議のメンバーは、地域包括支援センター長、地域嘱託員、利用者家族等で構成している。会議では「行政指導の結果」「健康診断」「外部評価結果」「災害訓練」「看取りについて」等を報告し、委員から意見をいただき、運営に反映するように努めているが、2ヶ月に1回の開催とはなっていないのが残念である。今後は、2ヶ月に1回定期的な開催になるよう努めてほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	言いづらい家族の意見も把握できるように意見箱を設置し、収集に努めている。また、毎月一人ひとりの様子を担当者が写真を添付し、羽音通信として送付している。さらに、家族面会時に利用者の様子を詳しく伝え、家族の意見等聴取しやすい雰囲気作りをしている。出された意見等はすぐに職員間で検討し、運営に反映させるような体制になっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、地域行事(お祭り等)に積極的に参加し、地域からもボランティア等で訪問してくれるような体制になっている。運営推進会議の内容も回覧で地域へ報告し、事業所の状況が伝わるようになっている。
	緊急時に対応できるようAED(心肺蘇生用除細動器)を購入したため、地域へも呼びかけながらAEDの使用説明会を開催した。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の評価で取り組みを期待したい項目になったため、利用者家族や職員からの意見を聴取し、地域密着型サービスの役割を反映した理念に作り直した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について管理者は会議等の中で掘り下げて伝えており、リビングにも掲示しており、職員全員で共有できるような体制となっている。また職員は、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、事業所の行事等回覧で周知してもらい、地域の行事にも積極的に参加している。昨年、AEDを購入し、緊急時に地域の人にも利用してもらいたいと回覧で知らせている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果で取り組みを期待したいとされた「地域密着型サービスとしての理念」と「災害対策」は、運営推進会議の委員にも関わってもらいながら改善した。今回の自己評価は、全職員で質の向上に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、委員（地域包括支援センター長、地域嘱託員、利用者家族等）の方々に事業所から報告（今後の予定、監査結果、外部評価結果及び改善計画等）し、委員から意見をいただきながら協議している。しかし、2ヶ月に1回の開催とはなっていなかったのが残念である。	○	今後は、概ね2ヶ月に1回（年に6回）の開催となるよう、日程の調整をし開催することが望まれる。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月担当職員が、利用者一人ひとりの様子を日記風に記録し写真を付け羽音通信を利用者ごとに作成し送付している。一緒に月々の請求書と預り金の報告をし、担当者の変更は羽音通信で報告している。利用者の健康状態の変化についてはその都度家族へ連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見等は、申し送り等ですぐに職員全員で共有し、運営に反映させるような体制となっている。		今後は、些細な意見や要望も記録として残していくようにされればさらに良いと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の際、新しい職員が慣れるまで1ヶ月以上は馴染みの職員がマンツーマンで指導し、信頼関係を築けるよう支援している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の研修については事業所内研修で十分であると考えているため、一般職員の外部研修への参加は確認できなかった。しかし、管理者の努力により職員へ向けた研修会や勉強会が数多く開催されていることは評価できる。	○	今後は、管理者や職員を段階に応じて育成していけるよう、外部研修も取り入れていくことで管理者の負担が軽減され、事業所に必要な最新の情報を得られるものと思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年、福島県認知症グループホーム連絡協議会を退会したため、交流の機会は減っているが、今までの人脈を活かし他の事業所職員と情報交換する機会を通してサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、昔の事や習慣、生活の豆知識、料理の仕方等を利用者から教えてもらいながら一緒に行い、共に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報、利用者との日頃（お風呂、レクリエーション、お茶の時間等）の会話や様子の中から利用者の思いや意向を把握するよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の思いや家族の意見を基に職員とカンファレンスで検討し作成している。出来上がった介護計画を家族に確認しながら、支援している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画は定期的または、利用者の状態（体調）変化がある場合や思い等が変わった場合に、随時見直しをしている。また、計画終了時には計画の評価をし、状況に合った新しい計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、馴染みのかかりつけ医による適切な受診に向け、職員の通院介助や医師の往診協力により支援している。家族による通院介助が困難な場合は、かかりつけ医の受診結果を家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所の看取りに関する指針を利用者や家族に説明し、看取り介護についての同意書を得て、対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳を守るためプライバシーに充分配慮した言葉かけや対応をすると共に秘密保持の徹底を行っている。また、利用者の個人情報利用について同意書により承諾を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者に寄り添い、支援できるよう業務プログラムを見直した。一人ひとりのペースに合わせて自由に過ごせるよう見守りを強化している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る事を把握し、利用者と職員と一緒に準備したり、片付けしたりして食事を楽しんでいる。また、週に4回(2日)、おまかせメニューがあり、利用者の好きなメニューを取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿った入浴ができるよう夕方から夜間の時間帯とし、毎日、全員が入浴を楽しんでいる。利用者の羞恥心や抵抗感に配慮した入浴支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望を把握し、習字や俳句、生け花等ができるよう環境作りをしている。また、できるだけ日光浴を取り入れメリハリをつけた一日となるよう工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	天気の良い日はできるだけ、散歩やドライブに出かけるようにしている。毎日の日課の中でも全員が玄関前の駐車場で日光浴をするようにしている。一人ひとりの希望も聴きながら対応できるよう業務プログラムの改善をした。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関も居室も鍵はかけられていない。職員は、見守りを重視したプログラムで業務を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に4回避難訓練と救急救命訓練を実施している。昨年の外部評価で取り組みが必要だとされたため、備蓄の準備をしたり、近隣への協力依頼を行ったりしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の栄養士の指導を受けながら、栄養バランスを考えたメニューとなっている。利用者の状態に合わせて、おかゆやキザミを取り入れた支援も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、利用者の作品（習字等）、手作りのカレンダーや行事の際の写真が掲示されており、北向きの大きな窓からは丁度良い光が差し込んでいる。トイレの入り口は車椅子でも入れるように十分な幅が確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、清潔で明るく収納スペースがとても広い。利用者の使い慣れた身の回りの物（整理タンス、テレビ、籐椅子等）が持ち込まれ、以前と変わらず居心地よく過ごせるように支援している。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム羽音

記入担当者名 草野 和子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。